

会員による 5 分間卓話

司会進行

藤澤 由起子プログラム委員長

松浦 久晴会員

私は、ロータリーで一番関心があるのはクラブ奉仕です。当クラブのクラブ奉仕の課題は、親睦、出席、増強です。これが充実するとクラブのブランド価値を高めます。「クラブ価値」の中での「価値とは」人様によい事を受け入れられ、満足されることです。たとえば、職業においては職業・仕事・業務を通して、相手様に満足をもたらすことです。そのために、アナタは仕事を全うするのです。これがロータリーでいう「奉仕」です。クラブ価値を高めることが「クラブ奉仕活動」であると私は述べたいのです。これには具体的には億の種目・項目があります。手立てといってもよいでしょう。これをクラブの共通課題とし、そして、さらには認識としたいのです。どのように動けばよいのか？これはこれからのことがらです。ただ言えるのは、クラブ活動への積極的参加です。

職業奉仕は、クラブ奉仕の中にあり、道徳的な行為をすることであり、職業奉仕の理念には、4 つのテストがあります。

真行寺 君枝会員

ゲーテは、文豪、自然科学者、ワイマール公国の宰相でもあり、政治家、科学者の顔を持ち、フリーメイソンでもありました。ニュートンも、ロイヤルソサエティ王立協会の会長職を 20 年以上も勤めメイソンであり、薔薇十字でございました。この二人に共通したものは、光の研究です。ニュートンは、光にだけ焦点あてたのに対し、ゲーテは、光と闇のこの両極の中で色彩が存在するという主唱でした。フランスのルネ・ジラルは、スタンフォード大学などで比較文学の教授を務めました。主著『世の初めから隠されていること』と題しました。奇しくも地球上では、文明の初めから国家の枠を超えたある勢力が、この星を掌握し支配してきたようです。

日本はどうでしょうか。各分野の御用学者やマスコミを鵜呑みにするオポチュニズムから脱却し、知らぬ間に洗脳を受けている生活から、本当の事実に気付かなければ、日本の行く末は危うく、事実を知ることが、日本本来の底力を取り戻す始まりであると思います。「誤った歴史認識を正す」というフレーズは聞こえてまいります。一般国民は、歴史の真相を、教育機関で教わりません。

真実を知り、反省するべきは謙虚に徹した上で、国民意識、誇りを養う。そうでなければ本当の未来への方策を見つけること、うち立てることはできません。

フランスの思い出

戸部 八郎会員

私の二人の息子は暁星を卒業しました。この学校は幼稚園から高校までフランス語が必修です。息子 2 人は大学生の時に 1 年間休学して、フランスのイマキレ コンセプションという学校で日本語教師をしました。私も欧州は欧州共同体や EU の経済統合、消費税の導入前に税制視察で、イギリスやドイツ、フランスには何度か行きました。フランス語も何も分からない状態でしたが、息子のおかげでフランス

の文化に触れることができました。フランスは、パリやいくつかの都市を除いて、のんびりした田舎の農業国です。TGV や車窓から見える菜の花の黄色い絨毯は素晴らしいものです。息子の運転で学校からアビニョンまでドライブし、ワイナリー巡りをしたのが思い出に残っております。エッフェル塔、ツールダルジャンでの食事、フランス料理の量の多さ、夕食の時間の長さ (20 時から夜中まで) など、息子のおかげで思い出ができ、まだ継続中です。

藤本 豊大会員

弁護士のドラマで、「99.9—刑事専門弁護士—」が放送されていますが、これは、被疑者が起訴されると 99%が有罪となる現実の中で、0.1%の無罪獲得のために奔走する話です。また、「グッドパートナー無敵の弁護士」は、企業法務を専門に扱う弁護士の話です。このように、特殊専門領域の弁護士像にスポットをあてている点は、弁護士業界の流れを反映していると思います。私が弁護士登録した時に比べ、弁護士人数は約 2 倍に、一方、裁判所での新規案件数は約 60%になっています。そのため、弁護士は広告販促活動に躍起になり、単価の引き下げをし、回転率を上げ、一つの事件に十分な時間・労力を割くことが出来なくなっているとも言われています。

私はこの流れには逆行するようですが、今まで以上に事件・顧客に向き合う労力を割いています。また、自分の利益のためだけではなく、顧客はもちろん、関わっている他業種の方とタイアップできないか、常日頃、意識しています。また、司法制度改革の負の側面として、新人弁護士が就職困難となり、先輩弁護士からスキルを学べない状況があると言われておりますので、今後、微力ながら、その改善に向けて尽力できるよう努力していきたいと思えます。

今井 裕一会員

私が、増強委員長の時にはそれなりに一生懸命やりましたが、実績が伴いませんでした。その間 2 名、今年度末に 2 名が退会されます。なぜこんなに一生懸命活動しているのに会員が増えないのでしょうか。ロータリーは役職を任命されたら断れないと聞いています。いやなら断ればよいと思いますが、でも全員が断ったら…。しかし、30 名いたらそれぞれ性格が違います。寄付のたくさんできる人、指導ができる人、現状できない人など。そのへんをクリアし、お茶の水は特例で、会長を 2 年連続で就任するとか、または、出席を求めすぎず、出席できる時に出席する気楽な会にするとかできないものでしょうか。いい加減なロータリアンで非常に申し訳ないですが、堅苦しいロータリークラブだと、増強するのが難しいこの時期に、退会する人の方が多いということはあってはならないと思います。なぜ退会するか、をよく考えてみることも必要だと思います。増強委員長の時には、候補者 5 人と接触しました。現役の人ですから会費は払えますが、ついて来られるだろうか、と思いきや無理強いはしませんでした。それが増強委員長をやっても、かなりしんどいと思います。

閉会点鐘

俣野 幸昭会長